

学生が飛騨牛振興策



飛騨牛ブランドの振興策を発表する学生＝岐阜市柳戸、岐阜大

ツイッターで発信／感想を拡散

岐阜市柳戸の岐阜大で、応用生物科学部の学生がグループで練り上げた飛騨牛ブランド振興策をJA関係者らに提案した。ツイッターを利用して若者の興味を引くなどのアイデアを披露した。(小森直人)

岐阜大 JA関係者らに提案

提案をまとめたのは地域ブランドと地域振興を考える授業「飛騨牛倶楽部」を受講した1年生13人。飛騨牛銘柄推進協議会の事務局を担うJA全農岐阜の協力を得て、飛騨牛ブランドの立ち上げや歩みを集中講義で学んだ後、日帰りで高山市の飛騨牛農家や食肉処理施設などを見学、関係者と意見交換して現状に理解を深めてきた。

1年生は「飛騨牛の担い手対策」「松阪牛に勝つには」など三つのテーマで発表した。このうち川口修弥さん(18)＝名古屋市中区＝ら4人は10～20代をターゲットに飛騨牛の摂食率を高める方策を研究。ツイッターで飛騨牛の公式アカウントを開設し、お薦めの料理店やイベントの情報を発信することや、食べた感想を写真付きで拡散させた人に割引や大盛りサービスのクーポンを贈りリピーターを増やすことも提言した。

このほか、9月に5日間かけて飛騨牛関連施設を巡った3年生2人がインターンシップの成果を報告。山辺健太郎さん(21)＝揖斐郡大野町＝は子牛市場で競り前の体重測定の際、1頭の雄牛で繁殖農家の表情が変わったことを挙げ、「本気の姿を見た」と語った。